

以下、本文-----

食道がん放射線治療における通常照射法と、対向 2 門と強度変調回転照射 (VMAT) を併用した Hybrid-VMAT の線量分布の比較に関する研究

1. 研究の対象

2016 年 9 月～2020 年 3 月に当院で食道癌 Hybrid-VMAT で放射線治療を受けられた方

2. 研究目的・方法

食道がんに対する治療は我が国では手術が第一選択であるが、手術より若干成績は劣るものの治療成績は優れている同時化学放射線治療も多くの施設で行われている。この治療法で、有害事象は放射線肺臓炎、食道炎などが挙げられる。放射線肺臓炎の予防には V20 (20 Gy 以上の線量が照射される体積) が 35% 以下という指標があるが、それ以下の線量が照射される体積が多い場合も放射線肺臓炎の確率は高くなるとの報告もある。多くの施設で用いられている対向 2 門照射では腫瘍(食道)以外の肺、心臓等の正常組織にも高線量が照射される。新しい治療法である強度変調回転照射 (VMAT) は、腫瘍部位の線量をより確実にし、周囲の正常組織の線量低減が可能である。今回、対向 2 門のみで照射を行う通常照射法と対向 2 門と VMAT を同時に照射する Hybrid-VMAT で腫瘍部位、正常組織の線量分布を比較し、どの照射法が腫瘍部位に線量が集中するか、正常組織の線量低減が出来るか比較検討する。

研究期間は、倫理審査委員会承認後から、2020 年 4 月 1 日までとする。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

食道がんの放射線治療を Hybrid-VMAT で行った患者の CT 画像等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター 放射線腫瘍科 宮崎 正義 (研究責任者)

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

-----以上